ArCS 若手研究者海外派遣支援事業
実務者短期派遣支援 終了報告書

氏名：　山崎　真梨

参加会議・コース名称
Arctic Frontiers 2019
■ 派遣中の活動と成果

〔派遣中に参加した会議・コースの概要と、得られた知見や成果を記述してください〕

1. 参加した会議の概要

2019 年 1 月 21 日~25 日までの 5 日間、平成 31 年度 ArCS 若手研究者海外派遣支援事業の助成を受け、北極における知識や技術を習得して高度な意思決定の場でどのように GIS を用いて課題解決を行えるのかを検討すべく、ノルウェーのトロムソで開催された Arctic Frontiers 2019 に参加させていただいた。本会議のテーマは Smart Arctic ということで、テクノロジーを用いた北極地域の持続可能な開発や環境問題への取り組みについてのセッションが多かった。

2. 参加したセッションの概要

メイン セッションを含め、関心のあるセッションや業務に関わりが見出せそうなセッションに参加し、5 日間で 17 のセッションに参加した。

① 1 月 21 日（月）

- Session I: State of the Arctic - Connecting the many 'Arctics'
- Session II: The Power of Knowledge
- Session III: Smart and resilient Arctic societies Part I
- Session III: Smart and resilient Arctic societies Part II

初日のセッションで印象に残っているのは、アメリカの Arctic Senator が話していた「学校に貼ってある地図はアメリカのみの地図で、ハワイやアラスカは地図のかどに囲われて描かれており、実際にどこにあるのかがわからないようになっているため、アラスカが北極域にあることを子供たちは知らないことが多い」という点だ。“we have to view the Arctic” とも言っていた。実際に日本も学校に貼ってある地図などは日本のみが描かれているのが多い気がする。小さいころから世界に日本はどこに位置し、北極がここにあって、南極がここにあるというのを認識させるべきではないかと感じた。また、環境問題に関しても小さいころから教えることで、次の世代にも知識とタスクを引き継ぐことができるのではないかとも思った。

② 1 月 22 日（火）

- Session IV: Ocean health. Blue growth through green thinking
- Session V: Arctic seafood and food security
- Session VI: Offshore energy and mineral resource prospects
- Session VII: Arctic seaways

2 日目のセッション中では Science というワードがよく使われていた。北極域の問題の中で “How you provide science for the evidence”, “How you provide science for the advice”

と、WWF の海洋学を研究している人が言ってたのが印象に残っている。Science は証拠にも使え、解決に導くアドバイスとしても使える。弊社の販売元である米国 Esri 社がかかげている“Science of where”の Science についても同じことが言えるのではないかと感じた。

③ 1 月 23 日（水）

- Plastics in the Ocean - Sources and distribution I
- Plastics in the Ocean - Sources and distribution II
- Plastics in the Ocean -Politics and economy
- Triple "R"ctic: Reduce, Reuse & Recycle - Sharing experiences on circular economy and marine litter

中日の 3 日目のセッションで印象に残っているのは、Svalbard に流れつくプラスチックは男性用品が多く、ロシア語やノルウェー語で書かれてものが多いという点だ。また、プラスチックの次に多いゴミは漁業用ネットで、全体では使えなくなった穴の開いた一部分のみが捨てられているという点も印象に残っている。最後のセッションで驚いたのはウガンダなどアフリカの諸国ではすでにビニール袋を廃止にしているらしく、先進国である国々がまだ廃止をしていないのはおかしいことではないかという点は特に共感した。

④ 1 月 24 日（木）

- A Smart Arctic Future -Technology Part I
- A Smart Arctic Future -Technology Part II
- A Smart Arctic Future -Sustaining a smart Arctic
- Plastics in the Ocean -Waste management and sustainability

本会議最終日のセッションで印象的だったのは、イヌイット族の人たちはテクノロジーをコミュニケーションやセキュリティとして使っており、遭難した際に GPS 情報を発信する発信機などはとても重要で助けになっているという点だ。その一方で、イヌイット族の若者はテクノロジーのおかげで容易に西洋文化を知ることができているが、民族としての伝統的な形で天気を知ったり、自分がいる位置を星空をみて確かめたりといったことができなくなっているとのことだ。テクノロジーと伝統的な文化のどっちの利点も失わずに共存していける社会を目指すべきなのかもしれないが、そこにはやはり様々な問題があり、簡単にはいかないのだろうなと感じた。

⑤ 1 月 25 日（金）

- Science for Kids

科学館では受付の周りにすでに環境問題を訴えるシロクマが小さい氷の上に立っている絵などがあり、子供にもわかりやすく理解できるような工夫があるように感じた。

3. 所感

本派遣により、北極域の問題や課題について深く現状を理解することができました。普段関わりのない業界に関するセッションがほとんどでしたが、このデータを GIS を利用して可視化したら見やすくなるだろうなと思うことが多々ありました。また、もっと GIS が使える場所があるということを知ることができ、今回このような貴重な機会を与えてくださった ArCS 若手研究者海外派遣支援事業の取り組みに感謝いたします。